

第76回全日本新体操選手権大会
男子個人総合初日レポート（10月27日）

10月27日、いよいよ今年の日本一を決定する、全日本新体操選手権大会が始まった。

場所は武蔵野の森総合スポーツプラザ、隣接する味の素スタジアムではJリーグの試合も開催されるような場所である。新体操にとっては初めてとなるこの会場で今年はどのようなドラマが生まれるのか楽しみだ。

注目選手は何といっても2021年、2022年全日本王者の堀孝輔選手（高田RG）が3連覇をかけた戦いに挑む。しかし、大学生も負けてはいない。2023年全日本インカレ王者森谷祐夢選手（国士舘大学）、インカレ2位岩渕緒久斗選手（青森大学）、インカレ3位尾上達哉選手（花園大学）、昨年度全日本選手権2位の東本侑也選手（同志社大学）達も優勝をする力を十分備えている。

また、若手の選手達にも注目だ。堀の教え子でもある山本響士朗選手（高田高校）は1年生ながら圧巻の実施力で今年のユースでは完全優勝を成し遂げている。本大会唯一の中学生、村山颯選手（国士舘中学/国士舘ジュニアRG）は高校生たちが上位を占めるユースで中学3年生ながら4位入賞を果たし全日本への通過権利を見事に勝ち取っての進出だ。

本大会は数多くの予選を勝ち抜いた選手達だけが参加できる大会である。全ての選手から目が離せない大会初日は個人総合前半2種目（スティック、リング）からスタートだ！

第1位 森谷祐夢（国士舘大学）

スティック 18.525

試技順3番と早い段階で登場したインカレ王者。緊張感漂う中での1種目目はスティック。裏打ちされた確かな基礎力を武器に美しい体操と巧みな手具捌きを披露する。また、タンブリングでも森谷のオリジナリティある技も完璧に決め18.525の高得点を獲得した。

リング 18.375

インカレから演技構成を変えて挑んだリング。流れるような手具捌きと安定した投げ技が光った。森谷の特徴である美しい姿勢の徒手体操も評価され、18.375を獲得した。

第2位 尾上達哉（花園大学）

スティック 18.400

インカレ3位の尾上が気迫の籠った迫力満点の演技を披露した。ハイレベルな投げ技を完璧に決めてノーミスで演じ切った。見事な演技で18.400を獲得した。

リング 18.425

柔らかなメロディに合わせて終始動きが止まることなく演じ切った。途中手具の落下に繋がりの場面も難なく切り抜け本番強さを発揮する。18.425の高得点を獲得した。

第3位 東本 侑也 (同志社大学)

リング 18.600

今年は少し試合で苦戦する印象があったが、その暗雲を払いのける会心の演技を披露した。全身で動きを表現し続け、難度の高い投げ技も難なくこなす。更にはタンブリングの質も高く全ての面においてオールラウンダーであることを見せつけた素晴らしい演技であった。本日の最高得点 18.600 を叩き出す。

スティック 18.050

昭和の名曲「コスモス」の優しいメロディにのせて情緒ある演技を披露した。途中何気ない手具操作で落下はもったいなかったが、東本の魅力がたっぷりつつまった演技であった。ミスはあったものの得点は 18 点台に乗せてくるあたりがさすがだ。

第4位 岩淵緒久斗 (青森大学)

スティック 18.375

インカレ 2 位の岩淵が大きな徒手と多彩な技、ダイナミックなタンブリングを武器に総合力の高い演技を見せてくれた。序盤の連続投げで少し体勢を崩したかには見えたが、その後しっかりと立て直し最後まで集中力を切らさず演じ切った。

リング 18.225

情緒あふれる音楽にのせて感情たっぷりに難度の高い投げ技、タンブリングを次々に決めて最後まで演じ切った。見事な演技で明日につなげた。

第5位 堀 孝輔 (高田 RG)

リング 18.150

2 連覇王者最初の種目はリングからのスタートだ。堀の持ち味は止まらない手具操作。社会人になってもその能力は衰えることなく向上していることが素晴らしい。社会人選手の練習環境は決して恵まれているとは言えないはず。堀は現職の教員を務めながらこのパフォーマンスは圧巻だ。最後まで集中力を保ち演じ切ったリングは見事ノーミス。素晴らしい滑り出した。

スティック 18.250

すでに堀の代名詞ともいえるスティックの演技は、見ている者を安心させてくれる。一つ一つ完璧にコントロールされた手具は、まるで元あった場所に自然と戻るかのように操作される。ラストの 3 回前転も決して高い投げではないが、回転を完璧にコントロールしてキャッチする。リングより得点を伸ばし明日につなげた。

近年稀にみるハイレベルな展開の男子個人前半。初日を制したのは 2 種目で安定した演技を披露した森谷祐夢 (国土舘大学)。しかし、上位 5 人の選手が前半種目で 18 点台を超える見ごたえのある展開に！

明日の後半種目ではこの上位の中から誰が抜け出すのか！個人 2 日目も目が離せない。

(男子新体操委員会：山田小太郎)